

派遣先所属 宮城県東部土木事務所

氏 名 坂本 甲次（さかもと こうじ）

派遣期間 令和3年4月1日～令和4年1月23日

1 派遣業務の内容、現況

宮城県東部土木事務所では、「復興・創生期間」の10年間の取組みと経過を踏まえ、復旧・復興事業の積み残されている課題の解決、完遂に向けた取組み、新たな「宮城県土木・建築行政推進計画」の着実な推進、地域課題の解消に向けた種まきなどに対して、職員が「気持ちをひとつに」との所長の号令のもとで、今年度の各事業に取り組んできました。

派遣先の用地第三班では、道路・河川・海岸・砂防の災害復旧工事及び復興事業に伴う用地取得に関する業務を行っています。震災から10年8ヶ月が経過しましたが、令和4年3月末までの事業完了に向けて、まさに事務所全体が一丸となって、各担当は目の色を変えて業務に取り組んでいます。

私は、河川・海岸の災害復旧工事と復興道路事業、合わせて5箇所についての用地取得と物件移転補償契約に関する事務処理を行っています。

具体的には、復旧・復興事業箇所内にある、石巻市と東松島市が防災集団移転促進事業で取得した土地を無償譲渡により宮城県が取得するための、当該土地の分筆と所有権移転登記手続きに関する事、石巻地方広域水道企業団や東北電力、東日本電信電話との物件移転補償契約に基づく支払事務に必要な検査・確認などを主に担当しています。

各事業箇所とも工事に関しては、順調に進捗しており3月末までの完了を目指して最後の総仕上げ・点検の段階に入っています。

用地取得事務に関しては、民地の取得は終わりましたが、官地に関しては、石巻市と東松島市から無償譲渡を受ける土地の筆数が多く、分筆登記と所有権移転登記をするための書類の精査等に時間を要しており、完了させるためには、もうしばらく時間が必要な状況です。

2 被災地の復旧・復興の状況

管内の復旧・復興の状況については、新しい道路が整備され、新しい住宅が建ち並び、仮設住宅が並んでいたエリアもその面影を全く感じさせないほどに風景が一変しました。震災被害の大きかったエリアは、復興祈念公園や運動公園、キャンプ場などに様変わりしています。

石巻駅周辺の繁華街は、復興需要が落ち着いたせいなのか、この2年ほどのコロナ禍のためなのか、閉店したお店、移転したお店が多く見受けられます。

一方、東部土木事務所のある新しい合同庁舎が建った地域は、JR仙石線の駅に近

く、三陸道の IC も隣接し交通の利便性が良いため、大規模な区画整理事業により新たな市街地が形成されました。一戸建ての住宅や復興住宅が建ち並び、大型のスーパー、ショッピングモールも近くにあるため、人々の生活圏が沿岸側から、内陸側に移った様子です。

他方、管内の石巻市、東松島市、女川町はいずれも震災前より人口が著しく減少しており、震災前の平成 23 年 2 月末に比べて石巻市が約 13%、東松島市が 9%、女川町では 39% も減少しました。特に、津波被害の大きかった地域では、住民流出により人口減少と高齢化が一層進んでいると感じます。



崎山トンネル（石巻市）開通



州崎復興道路（東松島市）開通

3 被災地へ派遣となって感じたこと

関東地区に住んでいる人の感覚では、被災から 10 年経って意識の風化を感じますが、こちらでは、被災地を盛り上げようと、被災の現実と日々戦っている方が多くいらっしゃいます。地元出身ではない、ボランティアきっかけで石巻に来て、毎年イベントに携わってくださる方、或いは、今では移住して、復興を支える力となっている方が何人もいることを知りました。凄い人たちですが、逆に捉えると、どこの地域でも組織でも同じなのかもしれませんが、地元の人たちの力だけでは、変革を成し遂げる大きなパワーは生じないのかなとも感じます。

こちらで見聞きしたことを自分の周囲の人たちに伝えることと、観光に訪れるくらいしか出来ませんが、こちらで交流した人たちとの新たなつながりを大事にしつつ、今後もつきあい続けたいと思っています。